

NEXT CONCERTS
》 次回東京定期演奏会

第 **759** 回

サントリーホール

フルート
船木 篤也氏

2024年4月12日(金)19:00開演 18:30~

13日(土)14:00開演 13:20~

下野竜也が描くウィーンにまつわる
2人の大作曲家の肖像画

指揮: **下野 竜也**

ブルックナー
生誕200年

シューベルト: 交響曲第3番 二長調 D.200
ブルックナー: 交響曲第3番 二短調 WAB.103
(1877年第2稿ノヴァーク版)

©広島交響楽団

1回券料金 S ¥8,000 A ¥6,500 B ¥6,000 C 完売 P ¥4,000 Ys (25歳以下) ¥1,500

※障害者手帳をお持ちの方は割引がございますので、サービスセンターにお問い合わせください。

次回東京定期演奏会指揮者にインタビュー!

下野 竜也 編

きき手 船木 篤也

—今回の演目はどうやって決めましたか?

「これまで日本フィルとは、いわばマニア向けの演目を組んできました。今回は『普通』にロマン派をと考え、大好きなブルックナー(今年は生誕200年)の交響曲から、今までどこでも指揮してこなかった第3番を選びました。ブルックナーは、突然変異の作曲家とみられがちですが、ハイドン、シューベルトといった、オーストリア交響楽の先達に連なる人です。ならば、同じ「第3番」「二調」ということで、シューベルトの初期作品を組み合わせようとなりました。」

—「二調」にどんなイメージをお持ちですか?

「調性格論というのが古くからありますが、なんといってもベートーヴェンの9つの交響曲の調が、そのイメージが、後世に刷り込まれていますね。ブルックナーも、ベートーヴェンの第9

交響曲に傾倒し、その調である二短調は憧れだったでしょう。ぼくにとっても大切な調。厳かな、宗教的な意味合いを感じます。いっぽう二長調は、圧倒的勝利、祝祭の調。二調というのは、どこか襟を正す感じですね。」

—シューベルトの初期交響曲は取るに足りない、という意見もあります。

「作曲家って最初の頃は、なんの制約も考えず、新しいものを書くぞという意気込みがありますよね。その、やんちゃなところがいい。シューベルトの場合は、まだ10代。学校の仲間にも、『ねえ、これやろうよ!』と言っている姿が目につきます。ぼくは小学校6年生の時でしたか、《未完成》から入って、シューベルトは暗い人だろうと勝手に想像していました。この第3番では、死をまだ意識していない、別の顔、明るいシューベルトを楽しんでもらえると思います。」

—ブルックナーは、下野さんにとってどんな存在ですか?

「宇宙って、行ったことはないけれど、こんな音がするんだろうなと。際がない広がりというものを感じます。いっぽうで、ウジウジしたところもある。言いたいことを、ずーっと言っているというふうな。歌謡曲で常套的に使われるような音の運びが出てきたりもする。聖と俗が混在しているんです。教会のミサでオルガンを弾いている。そこで、ふと外を見ると、農家のおじさんが牛を牽いて『うっー』とか言っているのが見える(笑)。そんな感じ。ブルックナーの全てを司祭のイメージに押し込もうとすると、面白くない。」

—「ブルックナーは苦手だ」と思っている人たちをお誘いするとしたら?

「ずっと一緒に音楽じゃないか、という声もありますけど、森の中を歩いていて『ずっと木じゃないか』などと言う人はいませんよね? そこでたまに、ぱっと綺麗な湖が現れる、といった体験がある。マーラーのように、『犯人は誰だ!』みたいな調子でスタートする音楽ではありません。二人は尊敬し合っていましたけどね。」

—第3番を、ブルックナーの交響曲全10作のなかで、どう位置づけますか?

「第1番、0番[のちに『無効』とされた作品]、2番が、ワーグナーからの影響を留めているのに対し、いよいよそれが抜けてきた感じですね。《フルキユレ》などからの引用はありますが、第4番、5番が孵化する前の曲。どこか尖ったところもあって、第1稿で聴くと、『ん?』と思うところもある。ぼくが第2稿を選ぶのは、これが本人の意志で書いた最後の稿だからです。第3稿は、かなり第三者の意見が入っており、彼の本音ではありません。」

—聴き手はブルックナーの音楽に身をゆだねればよいけれど、指揮は難しいでしょうね。

「いつも全体を俯瞰する必要があります。その場その場で『きれいだよな』などとやっている、ゆがんだお城ができてしまう。感情的な盛り上がり任せると失敗しますね。じわーっと感動して、『これ以上動くな』といつも自分を抑えています。」

—楽しみにしています。

(2024年2月7日、セシオン杉並にて)

助成:



文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援))
独立行政法人日本芸術文化振興会

文化庁
Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan